

新 任 ご 挨 拶

愛知学院大学歯学部同窓会

会 長 池 山 正 仁 (16回生)



3年後の創立50周年に向け、更には100周年への飛躍

この度、愛知学院大学歯学部同窓会会長に就任することになりました池山正仁でございます。今後の同窓会の執行にあたり、その決意を述べさせていただきます。

私は平成9年より本会理事(2期)、常務理事(2期)、専務理事(5期)として、事業・活動に携わらせていただいた経験を生かし、浅学非才ではありますが、更なる本会・母校の発展に寄与できるよう誠心誠意、真摯に取り組む所存です。

本年3月に卒業した49回生111名を正会員数として迎え、正会員数は3月末現在7,045名(内、院卒業生85名も含む)となりましたが、同窓会費未納者はわずか106名(院卒業生を除く)であります。昨今、世の中全般に言える組織離れにより、他校同窓会は会員組織率(会費納入率)の低下といった大きな問題を抱えています。本会は母校の配慮により在学時に同窓会費を納入していただいているため、会費納入率を鑑みることなく、事業・活動に専念できるといった大変恵まれた環境にあり、他校同窓会からも本会の事業・活動は全般にわたり素晴らしいと高い評価を得ています。しかしながら、それに甘んずることなく、事業・活動を再評価した上で、更なる充実・活性化に取り組みます。

母校は昭和36年(1961年)に開設され、1回生が昭和42年(1967年)3月に卒業した訳ですが、当時の愛知学院大学同窓会は全学部で構成されていたため、歯学部同窓会として分離独立できたのは翌年の昭和43年(1968年)6月16日でした。現在では全国に歯科大学は29校ありますが、母校は8番目(戦後2番目)に開設され、伝統ある大学に位置付けられていると同時に、歯科界におけるリーダーシップの発揮が求められています。同窓生は郡市区・都道府県歯科医師会役員だけでなく、日本歯科医師会代議員13名を有し、日本歯科医師会委員会においても多くの同窓生が活躍しており、歯科医師会においても責務も果たさなければならない立場にもなりました。現在の歯科界を取り巻く環境は歯科医師需給問題、社会保険診療報酬改定時の財源問題、消費税率の引き上げに伴う消費税損税問題、保険指導・監査のあり方の問題、国策(骨太の方針2014)による社会保障給付

の効率化・適正化問題等が山積していますので、重職の同窓生がこれらの問題の解決に寄与することを期待しています。

具体的には、以下の通り、本会・母校の発展に寄与するための基本的方針・課題をお示しします。

1. 本会の事業・活動を再評価した上で、更なる充実・活性化に取り組みます。

- ①全国 48 支部や会員への情報提供に努め、本会の事業・活動への理解を深めていただき、会員で良かったと感じていただけるような魅力ある組織を目指します。
- ②約 50 年の開きのある世代間のバランスを取りつつ、年々増加する女性会員を考慮しながら、本会の運営をしてまいりたいと考えます。
- ③会員の 5 割強が愛知県という地域偏在の傾向があり、遠隔地の支部会員数が減少傾向にあると同時に、高齢化が進んでいますので、遠隔地の支部の活性化に取り組みます。

2. 母校との連携強化を図り、母校の発展に寄与します。

今まで以上に母校との連携を密にして、母校が歯科大学のリーダーとしての確固たる地位を築くようにバックアップしていくことも、本会の責務のひとつと考えます。

在校生(準会員)への支援は勿論のこと、特に母校が直面している志願者の減少に歯止めをかけ優秀な学生を確保し、歯科医師国家試験合格率の向上するための方策を検討します。

3. 本会だけでなく、多方面にわたる人材確保・育成に努めます。

将来の本会運営の柱となる若い会員、女性会員の確保・育成だけではなく、他方面にわたる人材確保・育成に努めます。例えば、歯科医師会のリーダーとして活躍できる人材確保・育成に努めます。

4. 今後の基金のあり方を検討します。

本会の同窓会会費収入は一旦、基金管理委員会にてプールされていますが、同窓生数増加に伴う支出の自然増の他に、昨今の入学定員数の削減、退学等による同窓会費返金額の増加、在学時における同窓会会費徴収時期の延伸により基金の残余金は約 4 億 7400 万円(3 月末現在)となり、徐々に減少してきています。単年度収支のプライマリバランスを考慮に入れ、今後の基金の残余金のあり方を検討します。

5. 平成 30 年(2018 年)の本会創立 50 周年記念事業開催の準備に取り掛かります。

本会の周年記念事業は平成 5 年(1993 年)に創立 25 周年記念事業以来の開催となるため、平成 30 年(2018 年)の開催に向けての準備に取り掛かります。

以上、何卒、私の趣旨にご理解とご賛同を賜りますと共に、ご指導ご鞭撻の程、よ

ろしくお願い申し上げます。